

「みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ」をめざして

第2期 くるめ支え合うプランが完成しました

期間 令和8年度～令和12年度

くるめ支え合うプラン(以下、「プラン」)は、「地域共生社会」の実現をめざして、「地域福祉」を進めていくために策定したものです。

私たち市社会福祉協議会(以下、市社協)は、地域の皆さんや市と一緒に取組みを進めてきた第1期プランを踏まえて、「誰もが自分らしく幸せに暮らせる地域をみんなでつくっていくこと」が『地域福祉』と見出しました。

「プラン」を通じてめざす、「地域共生社会」の実現に向けては、誰もがお互いに、かけがえのない存在として人格と個性を尊重し合い、支え合いながら、誰もが自分らしく、生きる喜びを感じられることが大切です。

そのために、まちづくりの主役である地域の皆さん一人ひとりと、市社協と市で、ともに考え、取り組んでいきましょう!



Q 第2期プランでは、なにが変わったの?

A 第2期プランでは、第1期プランのめざす姿を引き継ぐとともに、これまで以上に地域住民や多様な主体が連携・協働する意味を含め、「みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ」をめざすこととしています。

みんなの声を大事にする

第1期プランと同じく、今回の策定でも、地域で活躍する様々な関係者へのヒアリングやアンケート、校区コミュニティ圏域(以下、校区)でのワークショップ、市民意識調査などで、困りごとや、やってみたいことの“声”を聞きました。

団体へのヒアリング、アンケート
●ヒアリング(28団体)
●アンケート(28団体)

ワークショップ(市内5つのエリア)
●中央圏域・東圏域
●西圏域・南圏域・北圏域

くるモニ、在宅高齢者基礎調査、市民意識調査、パブリック・コメント

第2期
くるめ支え合う
プラン

Voice!(みんなの声)

福祉は高齢や介護、施設といったイメージ。遠い未来のことで、自分事として捉えることが難しいです。でも、知ることによって協力が広がる幅が広がると思います。



久留米工業大学生

実際に参加してみると、「これくらいならできる」と自信にもなるし、楽しい。「小さなことができるがある」と知れば「それなら手伝える」という人は多いと思います。



『ちょいボラ』参加者

災害時の問題は、言葉の壁より孤立感。非常時につながりがない場所で孤独を感じるのは、みんな一緒です。日々あいさつを交わして顔を覚えてもらっている安心感が、非常時に生きるはずです。



久留米大学
外国語教育研究所 准教授

見えてきたキーワード・ニーズ

1 人と人、地域のつながりの大切さ	2 相手に届く情報発信	3 相手の立場を想像する	4 地域へ参加できるきっかけ
5 地域活動を楽しみたいと感じられる	6 居場所があることの安心感	7 災害に備えた日頃からのつながり	8 相談がしやすい環境づくり
			9 あらゆる課題へ対応できる体制

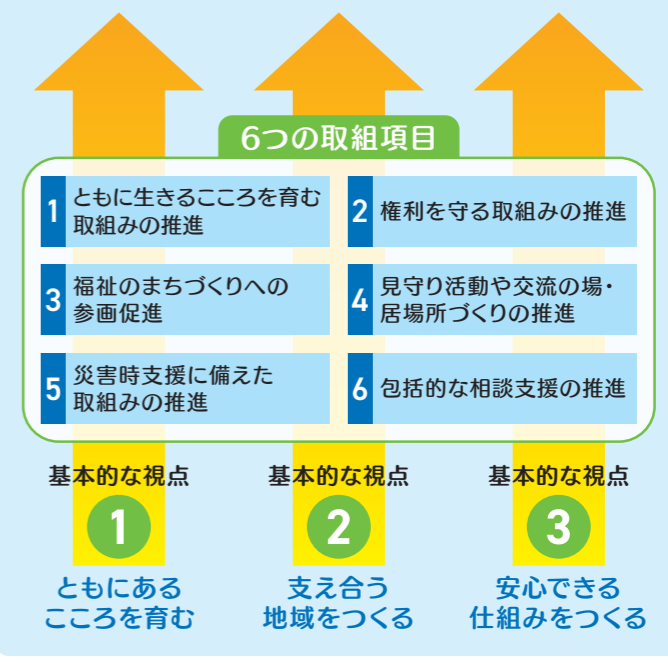
取組みをさらに推進する

第2期プランは、第1期プランの取組みの特長(成果)と課題を整理し、3つの基本的な視点と、6つの取組項目を整理しました。第1期プラン同様、「地域住民等ができること」「市社協が取り組むこと」「市が取り組むこと」を示し、それぞれの取組みが補い合い、重なり合いながら、ともに“めざす姿”に向かっていきます。



めざす姿

みんなでつくる 支え合うところあふれるまち くるめ



校区福祉活動計画を策定する

久留米市では、校区ごとに地域福祉を進めてきました。校区によって、現状や課題は様々です。それぞれの校区の実情に合わせて、どんな地域をめざしていくか話し合い、取組みの方向性を定める「校区福祉活動計画」の策定も始まります。

市社協は、くるめ支え合うプランを踏まえ、校区福祉活動計画の策定や見直しを支援していきます。

ぜひ、お住まいの校区の取組みに参加してみませんか?



校区福祉活動計画策定の様子